

# つつじヶ原



阿寒摩周国立公園

川湯ビジターセンター



開館時間

4月～10月 8:00～17:00  
11月～3月 9:00～16:00

休館日

毎週水曜日(7月第3週～8月31日は無休、  
水曜祝日の際は翌日)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL <https://www.kawayu-eco-museum.com/>

製作 環境省

## つつじヶ原自然探勝路

川湯ビジターセンターからつつじヶ原を経て、硫黄山まで自然探勝路が整備されています。道は起伏も少なく、気軽に歩くことができます。

センター周辺は、アカエゾマツ、ミズナラ、シラカンバなど、針葉樹と広葉樹が混ざった森です。つつじヶ原に入るとその植生が高山性のお花畑に一変します。センターから終点の硫黄山までは片道約2.6km。約1時間の探勝路です。



お花畑の中の探勝路

## 硫黄山 (アトサヌプリ)

硫黄山は川湯温泉から道道52号線を川湯温泉駅方面に向かうと姿を現します。今なお噴気を上げる姿は、大地の息吹を感じさせます。

硫黄山はアイヌ語で「アトサヌプリ」といい、アトサは「裸の」、ヌプリは「山」を意味しており、その名のとおり植生に厳しい裸の山です。この山は二重式の溶岩円頂丘で標高は512m。噴気孔は大小1500以上あり、白い噴煙を上げています。噴気の周辺には硫黄の結晶を見ることができます。



硫黄山周辺

## 硫黄山の歴史

硫黄山は硫黄鉱石の豊富な山として知られ、明治10年から採掘が始まりました。何度か事業者が変わりますが、安田財閥の祖・安田善次郎は、事業の近代化を図るため、標茶に最新の精錬所を建設し、明治20年に硫黄山と標茶間に北海道で2番目の鉄道を敷設しました。

硫黄採掘による繁栄は釧路川(標茶-釧路間)に小型蒸気船が就航するなど、釧路地方に近代化を進めることとなりました。



明治時代の硫黄運搬の様子

## 特異な景観

硫黄山周辺は火山の影響による特異な景観として知られています。麓に広がるつつじヶ原の標高は約150m。そこにハイマツ、イソツツジ、ガンコウランなどの高山植物が広さ100haにわたって自生しています。これは噴気孔から噴気する硫化水素などの火山ガスや強酸性を示す土壌によるもので、この厳しい環境に耐えられる植物が生態系を展開しています。この地域は阿寒摩周国立公園の中でも特別保護地区に指定されています。



ハイマツの枯損

## イソツツジ (ツツジ科)

高さ0.5～1mになる常緑の低木で、高山性の植物ですが、海岸や湿地にも生えます。花は枝先に直径1cmほどの小さい花を一枝につけます。

花の一つをよく見ると、花弁は5枚、雄しべ10本、雌しべ1本からなります。6月中旬から7月上旬にかけて、一面白い花が咲き、白一面の世界になります。



満開のイソツツジ

## 低地のハイマツ

ハイマツは主に高山帯に生育しますが、標高150m前後のつつじヶ原の低地に、このような群生をつくります。

高山では、厳しい環境のため、それほど樹高は高くなることは少ないようです。しかし、標高が低いつつじヶ原では風雪の影響も少ないので、背丈が高くなるのが特徴です。



2mを超えるハイマツ

## 木の仲間ガンコウラン

本州では高山にしか見られないガンコウランが生育しています。高さは10cmほどですが、草ではなく樹木の仲間です。地面を這うように成長し、枝分かれます。

春の雪解けの頃、一番に花を咲かせますが、花の時期が短いため、なかなかその姿が見られません。しかし、秋に歩くと濃い紫色の実をつけた姿を見ることができます。



ガンコウランの実

## ハナゴケは地衣類

つつじヶ原の地面をよく見ると、赤い花をつけたような植物が覆っているのに気が付きます。これはハナゴケと呼ばれるもので、コケの名がついていますが、地衣類の仲間です。赤い部分は菌類の胞子です。

このハナゴケは火山灰の流出を防いだり、雨のあとの潤いを保つ役割を果たしているともいわれています。



ハナゴケ